

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1475600639
法人名	有限会社 ノベライズ社
事業所名	グループホーム 麻生
訪問調査日	平成 20 年 7 月 25 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 5 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要な重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通じて確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者を兼ねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1475600639		
法人名	有限会社 ノベライズ社		
事業所名	グループホーム 麻生		
所在地	神奈川県川崎市麻生区はるひ野3-2-5 (電話) 044-980-5592		
評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会	評価確定日	平成20年9月5日
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成20年7月25日	評価確定日	平成20年9月5日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12人	非常勤 6人 常勤換算 14.4人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷 金	有(135,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(135,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食 200 円	昼食 400 円	夕食 おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	16 名	男性 3 名	女性 13 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	7 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 81.9 歳	最低 66 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	柿生内科クリニック、よしhiro歯科		
---------	--------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- ◆新興の分譲住宅地の一角にある事業所で、地域の方々や小・中学校、公共施設等と交流や連携をとりながら運営している。
- ◆開かれた事業所の運営を目指しており、2~3ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、利用者、家族等、地域の方々、行政、職員が活発に意見交換し、サービスの質の向上に努めている。
- ◆利用者一人ひとりの思いや意向を大切にし、その実現のために、職員も共に楽しむ姿勢をもち、積極的に外出する催しを企画し、実施している。

【重点項目への取り組み状況】

重 点 項 目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の評価実施後に、区の管理栄養士による研修会を実施して、乳製品を取り入れる回数を多くするなど、栄養面での改善に取り組んでいる。
重 点 項 目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が職員に評価の意義・目的を伝え、全職員がそれぞれ自己評価を行い、会議で話し合いながらまとめた。運営推進会議でも評価について話している。
重 点 項 目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2~3ヶ月に1回開催しており、利用者、家族、地域代表、地域包括支援センター職員、管理者、職員等が参加している。会議での意見交換を基に、新設された近隣の小・中学校に挨拶に行き、連携を深めるなど、事業所の運営に活かしている。
重 点 項 目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等が訪問しやすく、意見・要望が気軽に出しやすいよう、職員はコミュニケーションをとるように努めている。日常の暮らしについて、面会時に報告し、状態に変化があったときには、随時電話で、家族等に連絡している。 意見や要望を受けた場合は、話し合いをもち、希望に沿うよう改善に取り組んでいる。
重 点 項 目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、会合、地域の清掃活動やお祭りに参加している。地域の人々や子どもたちも、事業所の夏祭りや餅つき等の行事に参加しており、交流がある。 事業所の広報を地域に回覧して、理解・協力を得られるよう努めている。

2. 評価結果(詳細)

(■ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をふまえて、「入居者の意思・主体性を尊重する。日々の暮らしが豊かなものになるように支援する。隠し事のない運営を行う。」という理念を作成した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、各ユニットの事務室に掲示している。管理職と職員は、ユニット会議やミーティング等で話し合う時間を持って理念を共有し、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、会合、地域の清掃活動やお祭りに参加している。また、地域の人々や子どもたちが、事業所の夏祭りや餅つき等の行事に参加しており、交流をしている。 事業所の広報を地域に回覧して、理解・協力を得られるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が職員に評価の意義・目的を伝え、全職員がそれぞれ自己評価をし、会議で話し合いながら自己評価をまとめた。 昨年の評価実施後に、区の管理栄養士による研修会を開催して、栄養面での改善に取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族、地域代表、地域包括支援センター職員、管理者、職員等が参加して、2~3ヶ月ごとに開催している。サービスの向上に向けて、評価への取り組み状況について話し合ったり、運営推進会議での意見交換を基に、近隣との交流を深めるために平成20年度に新設した近隣の小・中学校に挨拶に行くなど、事業所の運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県・市・区の主催の研修会に参加し、地域包括支援センターと連携を図っている。 区の保健福祉センターに依頼して研修会を開く等、連携をとりながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常の暮らしぶりについては、個人別のアルバムを用意して、面会に来た家族に報告している。 状態に変化があった時には、随時電話で、家族等に連絡している。 金銭管理の報告は、毎月精算し領収書を添え、家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が訪問しやすく、意見・要望等が気軽に出来るよう、職員は家族等とコミュニケーションをとることに努めている。また、運営推進会議開催は家族会も兼ねており、家族等と昼食を共にする等して、意見が出しやすいように工夫している。 意見・要望等を受けた場合は、話し合いをもち、希望に沿うよう改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による支援が出来るように努めているが、やむを得ず法人内での異動や退職がある場合は、新規入職者には、個々人の力に応じて、なるべく早く利用者と馴染みの関係が築けるようにOJTにより内部研修を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時は、OJTにより内部研修を実施している。 外部研修は、行政や社会福祉協議会等の研修会の案内を全職員に配り、希望を募って参加している。 研修に参加した際は、会議で報告し、報告書は全職員が閲覧できるようにして、共有化をはかっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症高齢者グループホーム協会、県認知症高齢者グループホーム協議会、市の連絡会、区地域ケア連絡会等への参加や、法人内の交換研修を通して、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にグループホームに遊びに来もらったり、体験入居をするなど、徐々に慣れてもらうように配慮している。入居後も、自宅へ外泊したり、家族がグループホームに宿泊するなど、利用者に応じて工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の得意なこと、好きなことを把握しており、料理、包丁砥ぎ、縫い物、洗濯物たたみ、草むしり等、それぞれが出来ることに参加してもらっている。利用者が支援されるだけの立場にならないよう、職員は利用者と共に喜び悲しみを分かちあい、学びあうようにしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、本人・家族等に面接して、希望や意向等を聞いている。入居後も、日常の支援の中で聞き出し、個人生活記録に記録し、会議等で職員で共有している。希望や意向等の表出が困難な利用者には、一つひとつ具体的に尋ねたり、表情等により希望や意向等を引き出すように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方にについて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	各利用者の担当職員が計画の素案を出し、計画作成担当者である管理者と職員全体で検討して作成している。その後、本人・家族等に提示し、希望・意見等を聞き、話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	おおむね3ヶ月ごとに介護計画を見直している。状態の変化があった場合には、家族等に連絡の上、職員で話し合い、新しい介護計画に変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の状況に応じて相談を受けたり、空室を利用した短期入居を受け入れたり、医療機関の受診支援・連携をとるなど対応している。また、地域からの相談やボランティアの受け入れ等、利用者を中心に関連する機関と連携しながら柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に、事業所の協力医療機関の説明と、これまでの主治医の利用が可能なことを伝えて、選択してもらっている。 事業所の協力医療機関だけでなく、利用者の主治医とも連携をとり、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項を説明する際に、「入居者の急変時や重度化した場合等における対応にかかる指針」について本人・家族等に説明し理解を得ている。 職員間で、重度化や終末期についての研修、会議等で話し合い、重度化や終末期に向けた方針を共有している。 本人・家族等、医師、看護師、管理者、職員で話し合いをしながら連携をとり支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人・事業所の「個人情報保護方針」を全職員で共有し、個人情報の保護に努めている。記録等は事務所の戸棚に保管している。管理者は、人生の先輩、年長者である利用者一人ひとりの尊厳を大事にすることを日常的に職員に伝えている。訪問調査時に、職員は利用者一人ひとりにやさしく話しかけながら、利用者の意思を確認してから支援していることを確認した。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導ではなく、利用者の日々のペースや希望に沿って支援することを大切にしている。訪問調査の昼食前に、入浴を希望する利用者がいたので、職員間で調整して対応したり、買い物希望の利用者にも対応していた。食事に時間がかかる利用者には、時間をかけてゆっくりと介助し、個々のペースで生活できるように対応していることを確認した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を聞いて献立を決めている。職員は利用者の得意なこと、できることを把握しており、食材等を買に行く、食材を切る、盛り付け、下膳、食器洗い、包丁砥ぎ等、無理強いすることなく、利用者のその時の希望に応じて、参加してもらっている。訪問調査の昼食では、利用者と職員が一緒に歓談しながら食事をしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずには、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	可能な限り本人の希望に沿って入れるように支援している。入浴が楽しいものとなるよう配慮しており、入浴剤を使ったり、希望の利用者同士複数で入ったりできるようにしている。訪問調査の昼食前に、入浴を希望する利用者がいて、職員間で調整して対応していた。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や関心のあること、得意なこと等を把握しており、毎日が楽しいものとなるように支援しており、また、役割が強制にならないように配慮している。訪問調査時には、歌を歌う、洗濯物をたたむ、部屋でくつろぐ、皆とおしゃべりする、繕い物をする等、思い思いに楽しそうに過ごす様子が見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、散歩や買い物等へ出かけている。全員で外出や一泊旅行に行ったり、また、個人に合わせて落語会、展覧会、参拝に出かける等、毎日の散歩や外出以外に電車等を使って遠距離の外出も支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵は設置していない。二階の利用者が一階で飼っている室内犬に会いに行ったりするなど、自由に行き来している。夜間以外は、玄関の鍵はかけておらず、職員は、日中・夜間共に、利用者の所在・様子の確認に努め、利用者の身体的・精神的行動の制限をしないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を実施している。消防署の指導を受け、避難経路の確認等を行った。非常用持ち出し袋を準備している。自治会に加入しており、会合に出席した際には、自治会役員と話し合っている。町内会や近隣へ回覧板を活用して災害時等の協力依頼を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況、水分摂取状況に配慮して、記録をとっている。利用者の病状に応じ、医師や看護師と連携をとり、食事内容や食事形態等、必要に応じ個別対応している。 前回の評価実施後に、区の管理栄養士による研修会を実施し、全職員で再確認し、乳製品を取り入れる回数を増やす等、改善している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや椅子、食器棚、ソファ等のある居間は家庭的なくつろげる場所となっている。季節の飾りや花、利用者が制作した作品等が飾ってある。職員は、カーテンを開閉したり、冷房の効き具合で窓の開閉をして、光や温度の調整をしていた。毎日10時頃に掃除をしていると説明を受けたが、所々の床にはほこりが目立った。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室、和室があり、それぞれがタンス、ベッド、仏壇、家族の写真等、馴染みの物や好みの物を持ち込んでいる。居間から自分の居室に帰り、くつろいでいる様子が見られた。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>22</u>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>10</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>17</u>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>38</u>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	<u>13</u>
	合計 <u>100</u>

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに問わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム麻生 藍
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市麻生区はるひ野3-2-5
記入者名 (管理者)	村田 茂
記入日	平成 20 年 6 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> 事業の開始に先立ち、法人との間で理念を作成した。 理念について都度事業所内で考える機会を作る様努めている。 法人との温度差を感じる部分もある。 	<input type="radio"/> 法人の考えとの整合を改めてとる必要がある。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 事務室内の見やすい場所に理念を掲示している。 ミーティング等の都度、確認・話し合いの時間を持っている。 	<input type="radio"/> 理念について改めて考える機会を持つ。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議や家族懇談会等を通して、啓発に努めている。 地域の回覧板にホームの様子を掲載し、理解・協力して貰える様取り組んでいる。 	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> 近所の方や子供等、挨拶や声掛けをするようにしている。 事業所の事を理解して頂ける様、地域の回覧板を通して事業所の様子が分かる様な広報誌を定期的に発行している。 夏祭りや餅つき等、ご近所の方と一緒に楽しめるホームでの企画を行っている。 	<input type="radio"/> 近隣に開校した小・中学校との交流。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> 町内会の話し合いや、地域の清掃活動等に参加している。 最寄の包括支援センターと連携し、地域の他社会資源との交流を図っている。 地域の行事への積極的な参加。 	<input type="radio"/> 町内会の掲示板の活用。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・麻生区地域ケア連絡会議、麻生区合同ご近所ネットワーク会議に参加させて頂いている。 ・町内会での話し合いに参加し、「街づくり」について等話し合っている。	○	地域の高齢者の方やその家族との交流(介護の相談に乗る、等)。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・業務内において可能な限り実践している。 ・昨年度の外部評価を踏まえ、行政と連携して栄養についての研修会を行う、記録と介護計画の連携への工夫等、改善へ向けての実践をしている。	○	運営者の参加は現状では得られていない。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・定期的な開催の下、様々な意見を頂いている。 ・運営推進会議での話し合いをもとに、地域への広報誌を作成したり、動物を飼育する等の実践に繋げている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・包括支援センターとの連携は様々な場面で取らせて頂いている。 ・制度上で不明な事があったりした場合は問い合わせをさせて頂いたりしてはいるが、改まって市町村担当者と話し合う機会等はあまり作っていない。	○	市町村の担当者との連携をより密に取って行きたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・職員によって知識や理解に差のある状況である。 ・必要に応じて制度についての家族等からの相談を受けている。	○	個々の職員の知識の向上に努めたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・ユニットでの会議の場等で話し合っている。	○	より充分な学習の機会を持って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法人と連携し、契約書や重要事項説明書等の読み合わせと説明を通して利用についての理解が得られる様、話し合いの時間は充分取っている。 	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 苦情相談窓口を設置し、広報している。 日常的に利用者とのコミュニケーションを積極的に取る事で、認知症の程度により明確な意見や苦情が表現できない方についても配慮を怠らない様にしている。 	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家族懇談会・運営推進会議の場を活用している。 定期的に広報誌を発行し、法人全体の情報提供も行っている。 利用者個別の写真アルバムを作成し、家族等が来訪の折には閲覧して頂ける様にしている。 	<input checked="" type="radio"/> <p>前年度まで出来ていた「写真の送付」が、利用料請求業務が本社に移った事等もあり、定期的に出来なくなってしまっている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 苦情相談窓口を設置し、広報している。 家族懇談会・運営推進会議の場も活用している。 日常的な家族とのコミュニケーションの中で、相互に気軽に意見が出し合える様な関係作りに努めている。 	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 管理者が介護従業者として業務に入る事で、出来るだけ職員の意見を同じ目線で聞ける様、努力している。 運営者と職員との関係には、まだ距離がある感がある。 	<input checked="" type="radio"/> <p>前年度まであった「管理者会議」が「管理者会」と体裁を変え、運営者が出席しなくなってしまった為、運営者と直接意見交換をする機会が殆ど無くなってしまった。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 勤務としての調整については、なかなか難しいものがあるが、ユニット全体での外出の際等に公休の職員や、既に退職した職員がボランティアで参加してくれた等の協力体制が取れている。 定時での退勤が出来ない事は得てして多い状況でもある。 	<input checked="" type="radio"/>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法人としての事業所運営の都合(事業所が増えている)からか、人事異動が増えている。 この項目に対する法人の配慮は現状ではあまり感じられない。 	<input checked="" type="radio"/>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・必要最低限の研修に留まっており、事業所内での工夫に委ねられている感がある。	○ 運営者への課題提起をして行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・運営者からの機会提供は現状ではあまりない状況。 ・全国GH協の大会へは毎年職員の持ち回りで参加させて頂いている。	○ 事業所や職員側から提起をして行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員によってストレスが溜まっている場合もあるが、具体的な解決方法についてはまだ運営者側と職員側とで温度差があるように思われる。 ・事業所内で、管理者や職員同士で話し合いながら創意工夫への模索をしている最中。	○ #16の通り、運営者と直接の意見交換の場が現状では消滅しており、運営者の考えが事業所レベルには伝わって来ていないと職員の多くが感じている現状がある為、今後改善策を提議して行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持つて働けるように努めている	・人事考課が充分になされていない感がある。	○ 運営者への課題提起をして行きたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・利用にあたっては必ず本人との面接を行い、可能な限り本人の思いを斟酌出来る様努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・利用にあたっては時間を掛けて家族等の思い・考え方を傾聴し、同時に事業所の理念や考え方を伝える事で、利用についての理解の食い違いが起こらない様努力している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	・本人と家族の状況を把握していく過程で、必ずしもグループホーム利用が適当ではないと判断出来るケースについては率直にその旨をお伝えし、他の選択肢も情報として提供している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に 徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	・状況に応じて初期には自宅等への外泊の頻度を多く持つ たり、多く家族が来訪して頂ける様に提案をしたりしている。 ・他の利用者との関係性について、個々の職員が配慮を怠 らない様努めている。 ・職員同士で「気付き」について積極的に話し合い、必要に 応じて家族等へ相談・提案させて頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	・男女比でいと女性の利用者が多く、また職員の男女比も女性の方が多いので、特に「家事」について「教える・教わる」関係が自然に出来ている。 ・男性の利用者についても、趣味的な部分でお互い楽しめる機会(音楽・絵画・外出等)が確保出来ている。 ・ただ「されている」立場になってしまわないよう配慮している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	・家族や個々の職員によって、距離感に若干の開きがある (頻繁に来訪して頂ける家族となかなか機会に恵まれない家 族、等)	○	ホーム側から積極的に情報を発信することで、なかなか來 訪して頂けないご家族についても距離感を感じさせない様 な配慮をして行く。また、行事や外出等、ご家族も一緒に 参加出来るような機会を増やす事で、より多くのコミュニ ケーションを取って行きたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていくように支援し ている	・利用にあたっては出来る限りの情報を頂き、また日常的なコ ミュニケーションの中で新しい情報を頂いたりして理解に努 めている。	○	「より良い関係の構築」に向けて、職員全体での理解・取り 組みをより積極的に行って行きたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	・本人の希望を把握し、支援に努めている(馴染みの美容院 との関係性を継続する、友人と手紙のやりとり、ゆかりのある 土地に行く等)		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	・孤立しない様な配慮は行っているが、状況によっては重度 の利用者にかかりきりになってしまう事もある。 ・職員が安全には充分留意した上で、身体的に元気な利用 者が車椅子を押したり、手を繋いだりといった場面もある。	○	それぞれの利用者にとっての「孤立」と「一人で過ごす時間 の意義」を混同しない様にする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・既に退居された利用者のご家族で、引き続き事業所に定期的に来て頂き、利用者と一緒に庭いじりをして頂いているケースがある。		

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者それぞれの希望や意向(外出先や献立等)について、可能な限り意見を聞き、実現出来る様に努めている。	○	認知症の程度により、本人の思いや希望がどこまで叶えられているのか分からぬ部分については、今後もきちんと向き合っていく必要がある。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用開始の段階で、過去の生活歴等については把握する様努めている。 ・把握した生活歴等を踏まえて、日常生活で活躍出来る様な場面を提供している。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・「個人生活記録」という体裁で、それぞれの利用者の行動や発言内容等を記録し、また健康状態についても記録様式を作り把握に努めている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	・おおむね3ヶ月を目安に、まずは各利用者のそれぞれ担当となった職員が計画の素案を作成し、それを管理者(計画作成担当者)も含め職員全体で討議し、作成した介護計画を本人及び家族に提示しながら希望や意見を聞く、という流れで実践している。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・都度必要な支援が加わったり、支援が不要となったりした場合はチーム全体で検討し、新しい計画を作成・実行していく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・#35に同じく、「個人生活記録」という体裁で諸般を記録し、「以前は出来ていたのに出来なくなってきた事」「普段と違う言動や行動」等の「気付き」は詳細に記入し、情報を共有している。 ・日勤者⇒夜勤者の申し送りは必ずしっかりと行う様心がけている。	○	介護計画に即した支援を実行した際に、記録にアンダーラインを引く事で、気付きや工夫を次の計画に繋げて行く。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・状況に応じて柔軟な対応を行っている(本人の安心感の為に、家族との話し合いの上で就寝場所を「居室」に拘らず居室以外の場所に設けたりしている、等)。	○	利用者の重度化等に対しどこまで対応が可能か等、職員間で話し合いながら引き続き柔軟な対応をして行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・社協の「ボラ☆ナビ」に掲載させて頂いた所、学生ボランティアの申込を頂いたりと、地域との関係性が構築出来て来つつある。 ・地域で物損事件が起きた際、張り込み場所の提供という形で警察の捜査に協力させて頂いた事もある。	○	#4の通り、近隣に開校した小・中学校と連携して、生徒の「職場体験」等に事業所を活用して頂ける、また「こども110番」として活用して頂ける様な話し合いを校長と行っている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジヤーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・保険制度(医療・介護)の制約の中でではあるが、必要に応じて柔軟な対応をしている。	○	
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・日常的なコミュニケーションの中で、必要に応じて協働させて頂いている(地区ふれあい交流サロンのご案内、等)。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用開始にあたっては、当事業所の提携医療機関がある事はご案内しているが、より本人や家族にとって信頼関係が厚い医療機関がある場合はそちらを選択頂ける旨ご案内している。 ・当事業所の提携医療機関とは別に、本人・家族が選択された医療機関の医師も往診に来て頂けたりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・認知症の専門医とは、提携は結んでいるものの地理的に遠方という事もあり、なかなか相談等が出来ていない。 ・実質的な提携医療機関である内科の医師とは、定期的にミーティングの機会を持ち、諸般相談が出来ている。	○	今後、認知症の専門医との関係について改善して行きたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・毎週看護師が訪問し、適宜相談・助言を頂いている。 ・運営推進会議の場に看護師にも出席して頂き、医療面での学習や意見交換の機会を家族や地域の方と持つ事が出来た。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院にあたっては、期間や予後等について担当医・本人・家族と充分な話し合いの機会を持ち、可能な限りの早期退院と事業所での生活の再開に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・「入居者の急変時や重度化した場合等における対応に係る指針」を作成し、本人・家族・提携医等と共有している。 ・日常的に、都度それぞれの利用者のご家族等とは現状について話し合っている(身体的・認知症の程度等)。	○	様々なケースが想定される中で、どういった支援が可能かチームとして考えて行きたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・事業所の人員配置や設備、医療面等においての限界を認識し、その上で個々の利用者が可能な限り「ここを選択し得る機会」を失わない様な努力を提携医と共に都度検討している。 ・実際には病状的に事業所内で対応する事が困難な事例があり、結果として退居→医療機関への入院という形を取らざるを得ないケースがあったのも事実である。	○	「重度化」「終末期」ということについての学習機会を改めて持ちたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・自宅等から当事業所へのリロケーションに際しては、可能な限りダメージを軽減出来る様な配慮を行っている(居室については原則として全ての調度品を持ち込み可とする、洋室・和室の選択可、等)。 ・逆に当事業所から他の居所へのリロケーションについては、相手方の都合や事情等もあり、具体的な方策は「情報提供」程度しかないのが実態である。	○	今後、退居時の支援についてはより具体的な方策を検討して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・「個人情報保護方針」を定め、チームで共有している。 ・業務上においても個人記録のファイル等は置き放しにしない、記録上では原則として本人・家族以外の個人名の記入は避ける、等の配慮を行っている。 ・個々の利用者との関係性において必然性のある呼称は認めている(旧姓で呼ぶ、苗字ではなく名前で呼ぶ、等)。 	
51	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員主導ではなく、「自己決定」して頂ける様な声掛けの仕方(「どうしたいか」を聴き出せる様な)に努めている。 	
52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々のペースを尊重し、本人が意欲的な時には積極的に色々やって頂いたり、また、そうでない時はあえてそつとしておいたり等、状況に応じた支援を心がけている。 	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節、気候に応じた服装で過ごして頂ける様な支援をしている。 ・馴染みの美容室を利用したり、身内の方に理容して頂いたりしている。 	
54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの利用者がそれぞれ出来る事に参加して頂く流れが出来ている(献立・買物・調理・配膳・片付け…). 	
55	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の健康状態には留意しつつ、本人の希望も聞きながら、お酒等の嗜好品については提供している。 ・嗜好品等はそれぞれ個々で買物に出掛け購入している。 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 結果としておむつやパッドの使用を完全に無くすという所までは行っていないが、本人の「トイレに行きたい」という気持ちは大切にし、訴えがあれば必ず対応している。 ある程度の排泄のペースを把握し、適宜声掛けや誘導を行い、本人が失敗してしまっても落ち込んでしまわない様な声掛けをしている。 		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 本人の希望を尊重し、入浴して頂いている(一人で入りたい、白髪を染めたい、あまり頻繁には入りたくない、等)。 入浴剤を使ったり、菖蒲湯やゆず湯等、楽しめそうな入浴を演出してみている。 		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> #39でも挙げた様に、居室での就寝では不安で不眠になってしまうが、居間で夜勤者の傍でなら安眠出来るという方について、家族との相談の上でソファベッドを居間に持ち込み、日中は他の利用者も交えてソファで寛ぎ、夜間はそのソファベッドで就寝されるという形で支援しているケースがある。 		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 個々の関心のある事を見つけ出し、毎日が楽しめる様な支援をしている(落語を聴きに行く、絵を見に行く、等) 役割が強制力を持たない様な配慮をしている(やって当たり前、にならない様に)。 犬の飼育を始めた所、それぞれの利用者のペースで相手をする事で、日常的な楽しみとなっている。 	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 「金銭管理規程」を定め、チームで共有している。 利用者の状況に応じての対応であるが、個人でお金を管理し、買物をされているケースもある。 お金のトラブルは深刻なものへと発展する可能性もあるので、取り扱いには注意を払っている。 		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> その日の気候や個々の健康状態を勘案しながら、外出の支援を行っている。 外出にあたっては、安易に車を使用せず、公共交通機関を利用する事でより楽しみや達成感等を感じられる様にしている。 近隣に商店が出来た為、より気楽・自由に外出の機会が作れる様になった。 		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> かつての自宅や、他県への外出等、本人や家族の意向を聞きながら計画して実行している(日光への一泊旅行や動物園、音楽会等)。 	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は自由に使える様になっており、必要に応じて支援している。 ・自身の携帯電話を所持されている利用者もいる。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・比較的気軽に訪問して頂けている感はある。 ・玄関のスペースを使って散髪をされたり、庭の手入れや畠仕事をして頂けている方もいる。 ・#59の通り犬を飼育し始めた所、近所の方もご自分の犬を連れて遊びに来て下さる様になった。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・「身体拘束をしない」という意識は全ての職員が持っているが、状況によってスピーチロックをかけてしまっている場合が時折ある(「座りましょう」等)。	○	職員の「ゆとり」に左右される部分が大と思われる為、様々な要素について改善をして行きたい(ストレス、負担感等)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・夜間の玄関以外、一切の施錠はしていない。 ・「鍵を掛ける、掛けない」以前に「外に出たい時はいつでも出て良いですよ」というメッセージを職員が常に発信し、同時に外に出て行った時の対処の意識を持っていられる様、努めている。	○	リスク管理については、今後も継続して考えて行かなければならぬと考えている(見失う、事故、行方不明…等)。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・利用者の所在や様子については、常に気を配り、必要に応じて都度記録に記入している。 ・夜間は最低1時間毎の巡回を定めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・「危険だから」と一律に刃物等を鍵をかけて収納してしまうのではなく、人が感覚的に「ここにある」と思える場所にその物品があるような配置の仕方を大切にしている。 ・刃物を使う場合はスタッフが見守りする様にしている。 ・利用者の認知の状況に応じて、危険と思われるものは管理の方法を見直している。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・転倒防止については個別で見守り等を可能な限り徹底している。 ・誤薬防止については薬剤を一括で事務室管理とし、分包毎に記名されたものを都度確認し、服薬して頂いている。 ・避難訓練の実施。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・訓練という形では出来ていない。 ・実態としては、提携医との連携により、急変時の対応はほぼ支障なく出来ている。	○	対応方法について、改めて確認をすると共に、応急手当等についての学習の機会(普通救命講習の受講等)を設けて行きたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・非常用持出袋を準備している。 ・避難訓練の実施。	○	消防法の改正に伴い、消防計画の策定や、近隣協力者の依頼等を行う予定。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	・#66の項と関連するが、「グループホームで暮らす」ということから起こり得る様々なリスクについて、たとえ利用開始時には一通り説明していたとしても、改めて定期的に話し合う機会は必要と考えている。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・体調の変化について、日々観察し、必要に応じて検温や血圧測定を行い、家族や提携医等との連携を取っている。 ・職員同士で情報を共有し、状態把握に努めている。 ・毎日AM10:00に検温と血圧測定を実施し、記録している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬剤については、処方の都度薬情を頂き、内容の確認が出来る様になっており、スタッフ各自が確認している。 ・医師や看護師との連携。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・排便の状況を把握し、適宜提携医への連絡等を行っている。 ・日常的な運動や食生活、水分の補給等について留意し、利用者への働きかけを行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・義歯を使用している利用者については、夜間は預かり洗浄している。 ・個々の利用者によって支援の程度は異なる(声掛けのみからほぼ全介助まで)が、最低限就寝前の口腔ケアは実施されている。	○	口腔ケアが不十分な利用者もいる為、より効果的な方法について検討して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日を通じての食べる量や栄養バランスを考え、場合によっては本人の意向を優先し(今の時間はまだ食べたくない等)、最終的に必要量が確保出来る様な支援を心掛けている。 ・水分補給には留意している(外出後、入浴後等)。 ・糖尿病の利用者については、提携医との連携の下、一律のカロリー制限よりも運動量でカバーして頂く様な方法を取っている。	○	献立について、利用者の家族に栄養士の方がおり、栄養バランスについての相談を始めてみた。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・一通りの情報書類は揃えてある。 ・インフルエンザについては、毎年全員(入居者・職員)予防接種を行っている。 ・手すりやドアノブ、トイレの床等は清潔を保ち、また手拭きタオルの交換や汚染衣類の消毒等、まめに実行している。 ・手洗いの励行。	○	感染症についての学習機会を確保・充実したい。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・フキンのハイター消毒、食材によってまな板を使い分ける、食器は使用前に再度洗浄する等の対応を行っている。 ・食材の消費期限を把握し、無駄の無い様に使用している。 ・冷蔵庫の定期的な清掃。	○	#61の通り、近隣に食料品店が出来た為、以前よりも買物に気楽に行ける様になった事もあり、つい買い溜めをしてしまうというような事が無くなった。

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・#66の通り、基本的に鍵は掛けず、いつでも出入りしやすい状態になっている。 ・#32の通り、退居された利用者の家族のご好意で、庭や玄関でガーデニングがなされ、手入れもして頂けている。 ・飲料の自販機を設置し、近隣の方に利用して頂いている。 ・事業所の表札は利用者の手作りである。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・生活感や季節感を大切にする様、心掛けている(季節の行事の小道具を置く、利用者の書いた絵を本人の希望で貼る等)。 ・新築時、トイレの照明が明順応対応の照明であったが、使い勝手が最悪な為(点けた直後に暗すぎて利用者は何も見えない)、職員で交換した。 ・新築時、居間の照明が暗すぎて陰鬱な感じだった為(暖色系すぎて暑苦しくもあった)、職員で交換した。 ・利用者がトイレを使用した後は、次の方が気持ち良く使える様に、都度汚れや紙の有無をさりげなくチェックしている(排泄状況の確認も兼ねる)。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合つた利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている	・「予備室」を活用してみたり、廊下・台所のソファー設置等、試行錯誤しながらも色々と実践してみている(利用者の状況に応じて都度検討している)。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> #49との連関となるが、基本的に居室への調度品の持込に制限は設けていない為、それぞれが自分らしい部屋を作っている様に感じられる。 必要に応じて、家族や職員が衣類の入れ替えや、清掃等を支援している。 	○	開設から年月が経過するにつれ、ようやく少しずつではあるが「施設的」な雰囲気が薄れ、生活感が出てきている感もある。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	<ul style="list-style-type: none"> 天気や気候に応じて、適宜換気や空調の調節を行っている。 換気扇がやたらと多く、電気代も馬鹿にならない為、極力窓を開けての換気を心掛けている。 トイレや下駄箱等、換気の行き届かない場所には消臭剤を設置。 		

(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー過ぎて却って危険、不自由なきらいがある。 	○	#83に同じく、新築の建売ホームの弊害を感じている。水道の蛇口(1箇所は後から交換した)や、#81で記述した明順応対応の照明、普通ならあるべき場所に段差がない為、いつの間にか摺り足歩行に慣れてしまう等、直感的な使い勝手と異なる仕様が多過ぎる為、今後も継続して直せる箇所は直して行きたい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> #85に同じ。 水道の蛇口については、当初の仕様であるワンハンドルのものを撤去し、一般的なものに変更した所、利用者が悩むことなく使える様になった。 		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 庭を活用し、花の手入れや野菜の収穫、草むしり等出来ている。 洗濯物干し場も庭に面しているので、外に出る切っ掛けを作りやすい。 #64の通り、利用者の家族も畠仕事に参加して頂けたりしている。 		

V. サービスの成果に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input checked="" type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/> ②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゴーイングマイウェイ

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>22</u>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>10</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>17</u>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>38</u>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	<u>13</u>
	合計 <u>100</u>

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに問わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム麻生 さくら
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市麻生区はるひ野3-2-5
記入者名 (管理者)	村上 好美 (田中 茂)
記入日	平成 20年 6月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	できている。何事もホームの中だけで解決しようとせず、外出する機会を多く持てるよう取り組んでいる。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングやユニット会議などを通じて話し合いながら、あたり前の生活ができるように日々取り組んでいる。地域の人々が、日々入居者が生活している様子を目にする機会を増やしている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	定期的に家族会や運営推進会議を開き、ホーム内やホームでの生活などを実際に見ていただいている。また、買い物など生活圏内において日々交流の場を持ち、情報交換や意見交換を行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	外出時、入居者との散歩中など、近所の方と挨拶を交わしたり、小さなお子様や動物と触れ合うなどしている。地域の回覧板を通して、事業所の様子が分かるような広報を発行している。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ入り、可能な限り地域清掃や廃品回収などに協力している。意見交換会や季節行事などへの参加をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話し合いをしている。近くの小中学校と情報交換を行っている。	○	子供110番の家の登録などを行い、協力していく予定。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義は理解している。日々仕事をしていく中で見落としていることもあるため、客観的な評価、意見は真摯に受け止め改善に努力している。	○	今後も評価を活かし、質の改善に取り組んで行きたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に実施し、ホームでの出来事を報告、意見交換を行っている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実施できていない。	○	制度や運営に関する疑問などあれば相談したい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部のスタッフは研修会への参加により学ぶ機会が持てた。後見人制度を利用している入居者もいる。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修の資料などを参考に話し合いを持ち、防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	本社や管理者が行っている。契約後は面会時や電話連絡等において機会を設けている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	特別な機会としてではなく、常に入居者の言葉に耳を傾け、家族に伝えたり、ミーティングなどにおいてスタッフ間で検討している。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしづらいや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	請求時、面会時、家族会、往診後、健康状態に変化があるときなどに報告を行っている。入居者個々のアルバムを作成し、常時閲覧できるようにしている。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会を定期的に行っている。それ以外でも来所時、電話などでも意見していただき希望に沿うようにしている。契約時にホーム相談窓口や外部苦情申立機関について説明している。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	定期的に管理者会議、ユニット会議を実施し、反映させていく。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	急を要する事案が出来た場合や個々の状態の変化に応じて実施している。	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	一応努力はしているが、離職は抑えられていない。そのため、入居者へのダメージは避けられない。異動についても、とても配慮をしているとは思えない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営のために必要な研修は優先して確保されている。社内事業所間においては職員の交換研修を実施している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会を持つこと等推奨されているが、参加できていない。県の連絡会の研修会には、都合がつけば出席している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現場の様子や意見を把握できるよう取り組んでいるが、結果として伴っていない。	○ 現場の様子や意見を把握してもらえるよう働きかけていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	十分に把握しているとはいえない。	○ 同上
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者や責任者が、本人との面談の機会を設けている。面接後、資料を作成し情報共有している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	主に管理者や責任者が、家族との面談の機会を設けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	本人と家族それぞれに必要としている支援があり、全く同じ ではないため見極めが難しい。しかし、個々に対応してい る。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に 徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	見学、面談、体験入居の機会を設けている。入居後は帰宅 や家族との電話の機会を設けたり、職員、他入居者とのコ ミュニケーションを通して、馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と共に生活を築いていく中で、喜びや悲しみを分かち 合っている。また、人生の先輩として尊重し、話を聴いたり尋 ねたりしお互いに何かしてもらうことに対して、感謝の言葉を 掛け合っている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	家族によって差はあるが、面会時や家族会など折に触れ情 報交換を行っている。特に協力的な家族においては、本人 を中心とした関係性を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていくように支援し ている	本人の今までの人生、家族との関係性など尋ね、把握するよ う努めている。また、電話を取り次いだり、本人持ちの携帯電 話利用の支援、面会時の配慮など個々の希望にそって行つ ている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	便りや贈り物等あった時、可能な場合は本人から返事を出来 るよう支援している。個々の希望に応じて外出先を決めたり、 友人との外出や買い物、美容院の利用など支援している。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	個々を尊重し見守る支援をすることで、入居者同士の関わり が増え、支えあっている。誤解によって、関係性が悪化しな いよう仲介に入り孤立しないよう努めている。	○	共同生活の場であるため、より生活を豊かにするためにも 支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	催しのお誘いを受けたり、花の手入れに来られる家族があり、大切にしている。		

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の希望、意向が言える方に関しては、その言葉を記録に残し、把握に努めている。困難な方は、一つ一つ具体的に尋ねるなどして把握している。また、会議においても検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に訪問、面接を行い、本人、家族からの聞き取りを行っている。入居後は、本人とのコミュニケーションや家族、友人の面接時に話を伺い把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日1日を一緒に過ごし、実際に関わりを持つことで、現状の把握に努めている。(個人生活記録、健康状態の記録、連絡ノートなどに記入)看護師や医師からも助言をいただくこともある。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向と実際に関わっているスタッフの意見を盛り込んだ介護計画を作成し、見直しも行っている。意向確認が困難な場合も常に家族や関係者と話し合い、作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院などあった場合は情報の把握と共有、意見集約と状態の変化に合わせた対応をとり、現状に即した介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の発した言葉や日常の様子、スタッフの働きかけを個別に記録している。申し送りや会議などで情報を共有することで介護計画の評価や見直しに役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前の短期の宿泊やホームと自宅で半々に過ごすなど要望や状況に応じて対応を行っている。	○	本人、家族、スタッフで話し合いながら柔軟な支援をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要性に応じて支援している。	○	いろいろな形で地域資源と協力していきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャー やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在そのような意向がなく行われていない。	○	意向や必要性があれば取り組みたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居前の相談や紹介をしていただいている。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。ホームの主治医の往診時に家族の希望のある場合や必要と判断された場合は本人、家族、スタッフが同席し相談を行っている。その他、電話での相談も行っている。本人、家族の選択された医療機関との関わりもある。	○	急変時や状態変化に応じて随時相談できるかかりつけ医がいる。今後も継続して取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医とは、協力医療機関としての関わりはあるものの、地理的な制約があり活用できていない。	○	今後、認知症の専門医と関係をつくりたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に一回決まった看護師が訪問している。入居者と関わりながら、処置をしていただいたり、助言をいただいたりしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は、病院関係者と情報交換を行っている。担当医や本人、家族と話し合い、早期退院ができるよう努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームの方針を提示している。入居後は、個々の状態の変化に応じて、家族の意向と医師からみた医療面での意見、また、スタッフの話し合いの上で方針を決め、共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の限られる資源の中で取り組んでいくためには、本人の意向、家族の協力、医療機関の協力、そして入居している方の協力が必要である。本人にとって何がよいか常に模索し話し合い、検討し努力している。	○	現実的に困難な場合もあるため、状態の変化に応じて、その都度話し合い検討している。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人にとって、不自由や不安がないよう、できる限り配慮に努めている。家族に協力をしていただき情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の性格等によって異なるため、一人ひとりの性質を把握し、尊重する対応の仕方を心がけている。記録等ではイニシャルを用いている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人がどうしたいか、意見を聴いたり、思いを推し量ったりしている。状況が許す限り、一人ひとりが納得できるように話し合い、自分で決められるように支援している。	○	いかに入居者の希望や意志を引き出していけるか考えながら支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活する中での必然性や意欲を考え、生活に広がりや豊かさが作り出せるよう努力している。その人その人の日常を大切にしている。	○	1人ひとりのペースを大切に出来るように職員業務の分担を行い試行している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居前から使用している洋服を持参されており、好みにあつた服を着られている。化粧をしている方もいる。パーマ、カットの希望がある場合は、美容室へでかけている。身だしなみについては、さりげなく声かけし整えている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、買い物、調理、片付けなど1人ひとりが出来ることに参加し力を合わせて行っている。ホットプレートやカセットコンロを活用し、協力している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康状態への配慮をしつつ、ほとんどの方がおやつに対する希望を日常的に持っているため、個々に買い物に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗やオムツの使用が減ることは少ないが、一人ひとりの排泄について記録し、パターンを把握できるよう努め、トイレの声かけやおむつ交換のタイミングなどに生かしている。衛生面にも留意し、介助する際のプライバシーの配慮も徹底できている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望があれば(夜間を除き)入浴していただいている。介助が必要な方については話をするなどして気持ち良く、楽しい時間となるよう努めている。季節に合わせ、入浴剤やゆず湯なども取り入れている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	身体が疲れているのに休めない方に休息を促したり、心配なことがあって眠れない方の話を聴いて安心していただけるようしている。添い寝をすることもある。『1人では寂しい』という方には、リビングで休んでいただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の力を活かし、希望やペースに合わせて生活している。日常的に掃除や洗濯など家事を出来る範囲でやって頂く中で、自然と役割もできてきたが、負担感のないよう配慮している。個人の楽しみ事(テレビ、歌、編み物、散歩など)を気ままに行い、気分転換されている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使いたいときに使えることを伝え、希望があればできるだけ本人と一緒に買い物をしている。支払いをしていただくなどの機会もつくっている。お金に関するトラブルを防止できるよう留意している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に日常的に出かけている。希望により、できることは出来る限り支援している。	○	入居者本人が買いたいときに、買い物にでかけられるよう配慮したい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないとこに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見やドライブなどへ出かけたりしている。自宅へ外泊される方、家族と旅行へ行かれる方もいる。一泊旅行や高尾山登山なども計画し実行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があり支援している。携帯電話を持っている方もおり、電話の使い方が解らないときには説明や操作を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎週、面会にこられる家族もいる。友人、知人らの訪問もあり入居者との時間を過ごされている。居室、リビング、予備室なども利用いただき、一緒に食事をされることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解した上で介助を行っている。見守りや巡回を頻回にすることで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ただし状況によっては、声かけで立ち上がりを防いでいるような場合もある。	○	様々な状況により職員に余裕がないと行動を制止してしまうようなところもあり、その都度、意見交換を行うなどして改善していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はついていない。夜間以外は玄関の鍵を掛けず、常に自由に行動できるよう見守りを行っている。居室や玄関に鈴をつけるなどして出入りの確認できるよう工夫している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの生活ペースを尊重しながら、夜間入眠されても最低1時間毎の巡回、日中においても居室で過ごされる方の様子を伺ったりして所在、安否、行動の確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特に危険な薬品、消毒液、マッチなどは目の届きにくい場所へ保管するなどの配慮をしている。日常で使用するものは、基本的に全て使いやすいよう(あるべき場所)にあり、スタッフが留意することで危険を防いでいる。	○	一人ひとりの持ち物などに関しても、本人や家族と相談をして保管させていただくなど配慮している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入眠時の呼吸確認や非常ベルと消火器の設置、一部のドアに鈴をつける、誤嚥の危険がある方のそばにスタッフが座るなどおこなっている。一人ひとりの所在、安否確認も行っている。	○	状態は常に変化していくということを念頭に置き、危険を予測できるときは、その都度申し送りなどで話し合い、対応策、防止策を検討している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者の日常的な様子を看護師に伝え、参考になりそうな資料などを提示してもらうなどして、応急手当、緊急時の対応マニュアルの周知に努めている。定期的な訓練は実施できていない。	○	すべての職員が訓練や研修等に参加できるように時間をかけて取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常用持ち出し袋の設置はしている。消防署からの指導を基に、想定できることを話し合い、避難経路の確認をしている。実際の訓練や地域への働きかけは不足していると思われる。	○	地域の人々の協力を得られるよう働きかけて行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時は管理者、責任者が家族と話し合い説明している。入居後は状態の変化に応じて、その都度話し合いを持つようしている。	○	入居者個々の持っている力を見極め、身体的、精神的な自由を奪わないようにしたいと考え、話し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルの測定を実施。本人の訴えがなくても、異変に気づいたときは細かく記録し、申し送りと継続した様子観察を行い、スタッフ間で相談している。必要であれば医師と相談したり、受診するなど対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報、用法や用量については医師や薬局の指示により理解できている。受診結果票などを用いて情報共有にも努めている。頓服薬服用時の状態変化については特に留意している。	○	1人ひとりの状態に合わせて、服用の仕方について工夫している。(手渡し、少量ずつ、飲み込むまでの確認等)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	全員が理解し、毎日の排便状況の把握を出来る限り行い記録している。必要に応じて水分摂取を促したり、服薬、医師への相談等の対策を行っている。食事では、食物繊維を多く含んだ食材を使用したり、牛乳などの飲み物で予防に努めている。	○	身体を動かすのが困難な方には、腹部マッサージなどを実施している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯を使用している方は、義歯洗浄剤を使用し洗浄を促している。自分で出来ない方には、介助をし、口腔内の清潔保持に努めている。	○	職員も歯磨きを行いながら声をかけるなどして、少しでも多く取り組んでいただけるよう支援したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立を記録している。水分摂取の重要性を理解し支援している。個々の状態により、調理法の工夫や声かけなどの促し、補食の用意をするなどしている。栄養士との研修を通して、乳製品が不足していることがわかり、改善へ取り組むことができた。	○	季節や旬の食材などを取り入れたり、希望に沿ったりしている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	医師や看護師から情報提供をいただき、感染症予防について認識している。インフルエンザの予防接種を実施している。手洗い、うがいなどで予防に努めている。トイレ、手すり、汚染した衣類などは消毒している。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日夜勤帯を中心に食材の期限のチェック、調理済み料理や残り物の破棄を実施。調理器具や急須、湯のみ等の洗浄、漂白を徹底している。	○	生ものを扱う際は、特に衛生面に留意していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの表札は入居者の手作りである。玄関前には自動販売機やベンチもある。花壇には花の種を蒔いたりしている。普通の家庭のような環境づくりを心がけている。	○	入居者が靴を脱いだり履いたりしやすいように配慮していきたい。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明器具には和風のものを使用し、浴室や階段にも窓を設けている。季節にあった花や装飾を積極的に取り入れている。トイレの照明が薄暗いとの指摘を受け、明るいものに交換している。	○	状況によって、職員間のやり取りが目立つこともあるため留意し、気持ちよく過ごしていただくために配慮していく。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、テーブルの席とテレビ前のソファがある。また、玄関前や廊下にも椅子を置き、工夫をしている。入居者の状態の変化に合わせて、位置や向きを工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの方が入居以前からの箪笥や寝具を持ち込んでいる。仏壇やご家族の写真を置いたりしている。生活していく中で、使い勝手や本人の状態や行動にあわせて、相談しながら工夫している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレ、居室は24時間換気扇が稼動している。掃除の際や状況に応じて窓を開けて、換気ができている。冷暖房は常に入居者の感覚や状態を重視して調節している。	○	共有スペースでは、個々の感覚が異なり配慮に工夫が必要であるため、常に取り組んでいる。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子対応のトイレがある。トイレ、浴室には安心して使用できるよう位置や高さなどを検討し手すりを設置している。浴槽内には、滑り止めのマットも必要に応じて使用している。	○	入居者の状態変化に応じて常に検討していきたい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや必要とされるかたの居室には表札をつけている。台所の引き出しに何が入っているかわかるようシールを貼っている。危険でなければ、失敗があっても一緒に考えたりするなどして工夫している。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでは季節によって、花や野菜を育てており、手入れや観賞して楽しんでいる。物干しとしても利用し、入居者が自発的に洗濯物を干したり、取り込んだりする姿も見られる。	○	季節に合わせて工夫していきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の
		<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族と
		<input checked="" type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input checked="" type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/> ②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・自分のことは自分でできるように支援している。
- ・あたりまえの生活が出来ている。
- ・外出することに力を入れている。
- ・安全に暮らすことができるよう努力している。
- ・楽しく生活して頂ける様支援していきたい。